

奈良県の 農産・園芸・水産



奈良県の農産・園芸・水産

目 次

1 概 要	自然的条件	1
	統計	2
	産地マップ	5
2 生産状況	水稻・麦・大豆	6
	野菜	7
	薬用作物	8
	果樹	9
	花き・植木	10
	茶・環境保全型農業	11
	水産業	12
3 研究の取組み		13

はじめに

本県は、都市近郊という立地の良さや恵まれた自然条件を生かした、農業や水産業が古くから営まれ、柿やキク、金魚等、全国に誇れる特産品を生産してきました。しかし、農産物価格の低迷や担い手の高齢化等、県農業・水産業を取り巻く環境は厳しさを増すばかりです。

そこで、県では、奈良らしい農業・水産業の発展と農村の活性化を図るため、県産農水産物の高付加価値化、高品質化によるブランド化や販路開拓等に向けて、生産から流通・加工、販売までの一気通貫した取り組みを積極的に展開しているところです。

この冊子は、皆様方に県農業・水産業の状況や県が行っている施策や研究の取り組み等を紹介し、県農業・水産業へのご理解を深めていただくために作成しました。

令和7年4月

1 概 要

自然的条件

① 気 象

(奈良)

年平均気温	年降水量	年間日照時間	年平均日最高気温	年平均日最低気温
15.7℃	1,365mm	1,836h	20.9℃	11.5℃

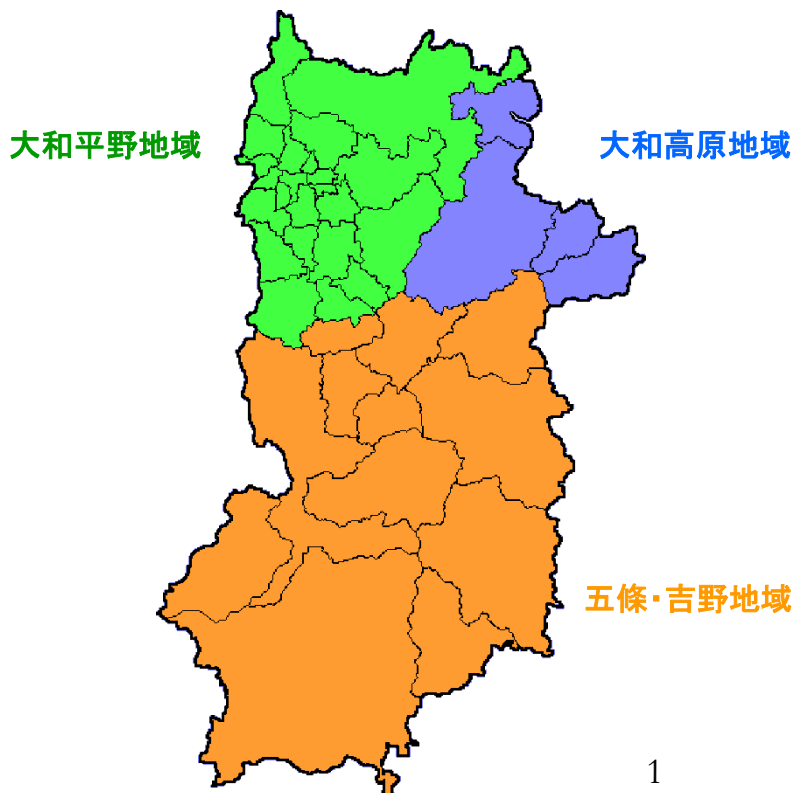
※奈良地方気象台の地上気象観測年別平均値

(統計期間1991～2020年)

② 地 勢

面 積	南 北	東 西
3,691km ²	103.4km	78.6km

■ 地域区分



南北103.4km、東西78.6km、
面積は3,691km²。国土の約1%
を占めている。

○「大和平野地域」

標高概ね100m以下の平地
からなる奈良盆地を中心と
する地域

○「大和高原地域」

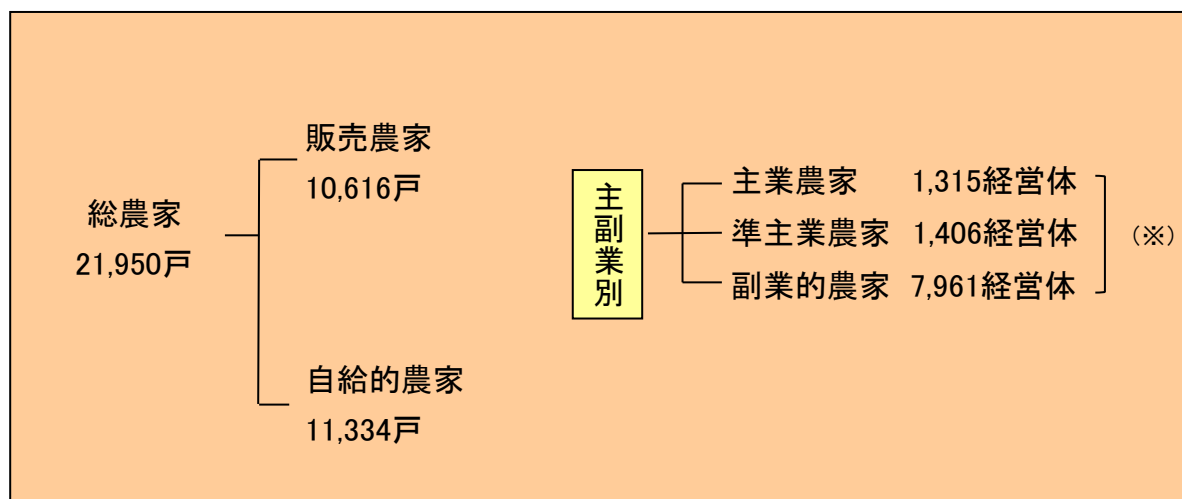
県北東部に位置する標高
200～500mの中山間地域

○「五條・吉野地域」

大部分が山間地域

統計

① 農家数



2020年農林業センサス

(※) 主業農家

農業所得が主（農家所得の50%以上が農業所得）で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる個人経営体をいう。

準主業農家

農外所得が主（農家所得の50%未満が農業所得）で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる個人経営体をいう。

副業的農家

1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいない個人経営体をいう。

② 耕 地

(ha)

耕 地 面 積		
	田	畑
18,700	13,200	5,430

作物統計調査 令和6年耕地及び作付面積統計より

③ 県内食料自給率 (%)

カロリーベース	生産額ベース
15	19

農林水産省試算(令和4年度概算値)

④ 作物別産出額

(億円)

米	麦類	野菜	いも類	果実	花き	茶	その他	合計
87	0.3	113	2	83	43	6	7	342

令和5年産 都道府県別農業産出額及び生産農業所得(農林水産省)より
麦類の産出額は県推計値

⑤ 主要品目別統計

● 水稲・麦・大豆（令和5年産）

	水 稲	小 麦	大 豆
作付面積(ha)	8,200	128	117
収 穫 量(t)	42,400	407	103
産出額(億円)	87	0.3	0.4

作付面積・収穫量は農林水産省 作物統計より
 水稲の産出額は農林水産省 生産農業所得統計より
 小麦・大豆の産出額は県推計値

● 野菜（令和5年産）

	イチゴ	ハウレンソウ	ネ ギ	ナ ス
作付面積(ha)	99	272	132	86
収 穫 量(t)	2,290	3,020	2,480	4,380
産出額(億円)	40	14	11	11

	トマト	キュウリ	ダイコン	スイカ
作付面積(ha)	66	60	90	77
収 穫 量(t)	3,190	1,700	3,040	1,780
産出額(億円)	6	4	2	2

作付面積・収穫量は農林水産省 野菜生産出荷統計より
 産出額は農林水産省 生産農業所得統計より

● 果樹（令和5年産）

	カ キ	ウ メ	ブドウ	ナ シ
作付面積(ha)	1,760	273	72	70
収 穫 量(t)	26,600	991	552	1,310
産出額(億円)	65	2	6	5

作付面積・収穫量は農林水産省 果樹生産出荷統計より
 （ブドウ・ナシは令和2年産）
 産出額は農林水産省 生産農業所得統計より

● 花き・花木(令和5年産)

	切 花			花壇用苗もの類		鉢ものの類	花木
		キク	切り枝		パンジー		
作 付 面 積 (h a)	217	95	108	36	8	5	10
出 荷 量 (千 本 ・ 千 鉢)	58,400	43,500	6,310	26,500	5,400	726	339
産 出 額 (億 円)	22	14	5	8	2	2	0.9

農林水産省 花き生産出荷統計より
切花、花壇用苗もの類の産出額(合計)及び鉢ものの類、花木については県調べ
キク、切り枝、パンジーの産出額については生産農業所得統計より

● 茶(令和5年産)

茶 期 別	全 体	一番茶
荒茶生産量 (t)	1,670	900

全国茶生産団体連合会調査

栽 培 面 積 (h a)	460
産 出 額 (億 円)	12

栽培面積: 全国茶生産団体連合会調査
産出額: 生産農業所得統計より
茶(生葉)と荒茶の合計金額

茶 種 別	かぶせ茶	てん茶	普通煎茶	番茶
荒茶生産量 (t)	220	215	365	870

全国茶生産団体連合会調査

● 水産(令和5年産)

河 川 漁 業	ア ュ	アマゴ
漁 獲 量 (t)	43	28
漁 獲 高 (億円)	1.5	0.5

農業水産振興課調べ

食 用 魚 養 殖 業	アマゴ
生 産 量 (t)	10
生 産 額 (億円)	0.2

生産量: 農林水産省 農林水産統計
生産額: 農業水産振興課調べ

観 賞 魚 養 殖 業	金 魚	錦 鯉
販売数量(万尾)	4,750	0.3
販売金額(億円)	8.2	0.01

農業水産振興課調べ

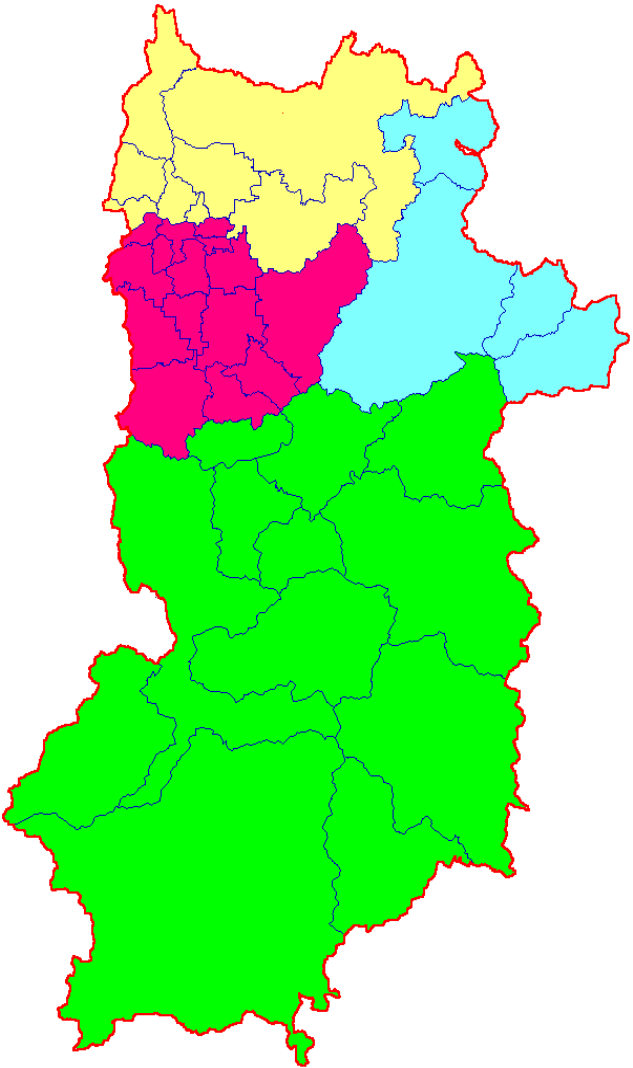
奈良県の農産・園芸・水産マップ

(米は県内全域にあるため省略)

北部農業振興事務所	奈良市	イチゴ、ナス、スイカ、ネギ、大和きくな、軟白ずいき、千筋みずな、小しょうが、祝だいこん、バラ、花壇用苗もの、鉢もの、茶
	天理市	小麦、イチゴ、トマト、ナス、ホウレンソウ、カキ、ブドウ、バラ、花壇用苗もの、茶、金魚
	大和郡山市	小麦、イチゴ、トマト、ナス、ネギ、シュンギク、筒井れんこん、大和丸なす、イチジク、花壇用苗もの、花木類、金魚、錦鯉
	生駒市	黒大豆、イチゴ、トマト
	平群町	イチゴ、ブドウ、キク、バラ、枝もの
	三郷町	ブドウ
	斑鳩町	小麦、イチゴ、ナス、ホウレンソウ、ナシ
	安堵町	イチゴ、トマト

中部農林振興事務所	橿原市	小麦、イチゴ、アスパラガス、花壇用苗もの、鉢もの
	桜井市	小麦、大豆、ソバ、イチゴ、キュウリ、ダイコン、ホウレンソウ、ミズナ、祝だいこん、大和寒熟ほうれん草、ミカン、バラ、鉢もの、花壇用苗もの
	川西町	トマト、ホウレンソウ、ネギ、結崎ネブカ
	三宅町	イチゴ
	田原本町	小麦、イチゴ、トマト、ナス、ホウレンソウ、コマツナ、味間いも、ひもとうがらし、球根切り花、花壇用苗もの
	高取町	イチゴ、トマト、ナス、バラ、トウキ
	明日香村	イチゴ、トマト、キュウリ、ミカン、鉢もの、花壇用苗もの、キク、アマゴ、トウキ
	大和高田市	ネギ、コマツナ、大和まな、シロナ、鉢もの
	御所市	大和いも、サトイモ、カキ、鉢もの、花壇用苗もの、花木類
	香芝市	イチゴ
	葛城市	ナス、ネギ、半白きゅうり、キク、鉢もの、花壇用苗もの
	上牧町	イチゴ
	王寺町	オリーブ
	広陵町	小麦、イチゴ、ナス、ホウレンソウ、花壇用苗もの
	河合町	イチゴ、ブドウ

東部農林振興事務所	山添村	小麦、ホウレンソウ、片平あかね、大和ふとねぎ、ダリア球根、花壇用苗もの、茶、アユ、ワカサギ、キハダ
	宇陀市	小麦、黒大豆、小豆、ホウレンソウ、ミズナ、コマツナ、レタス、エダマメ、宇陀金ごぼう、祝だいこん、大和まな、大和寒熟ほうれん草、ブルーベリー、球根切り花、鉢もの、花壇用苗もの、ダリア球根、花木類、茶、アマゴ、ワカサギ、トウキ
	曽爾村	トマト、ホウレンソウ、ミズナ、シュンギク、大和寒熟ほうれん草、アユ、アマゴ
	御杖村	ホウレンソウ、アマゴ



南部農林振興事務所	五條市	小麦、トマト、ナス、イチゴ、キュウリ、ネギ、花ミョウガ、香りごぼう、カキ、ウメ、花壇用苗もの、枝もの、アユ、アマゴ、トウキ
	吉野町	ナス、ワラビ、アユ、ワカサギ、トウキ
	大淀町	ナス、ナシ、茶、アユ
	下市町	スイカ、ハクサイ、カキ、ウメ、ブドウ、キク、バラ、枝もの、アユ、アマゴ、シャクヤク
	黒滝村	コンニャク、黒滝白きゅうり、枝もの、アマゴ
	天川村	ワサビ、イチゴ、アユ、アマゴ
	野迫川村	ワサビ、アマゴ
	十津川村	ワサビ、枝もの、アユ、アマゴ
	下北山村	下北春まな、アユ、アマゴ
	上北山村	アユ、アマゴ
	川上村	アユ、アマゴ
	東吉野村	茶、アユ、アマゴ

2 生産状況

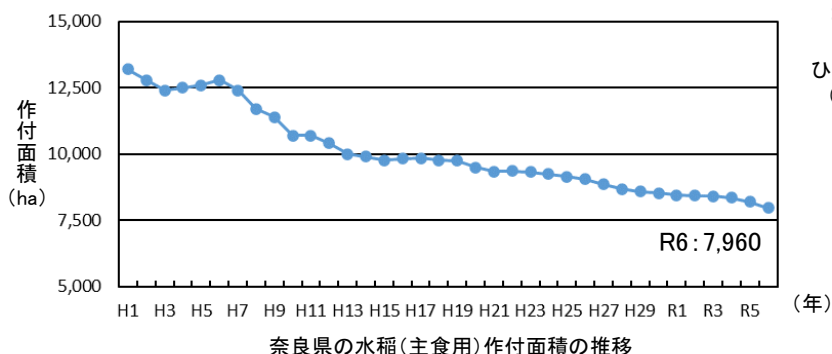
水稻・麦・大豆

水稻

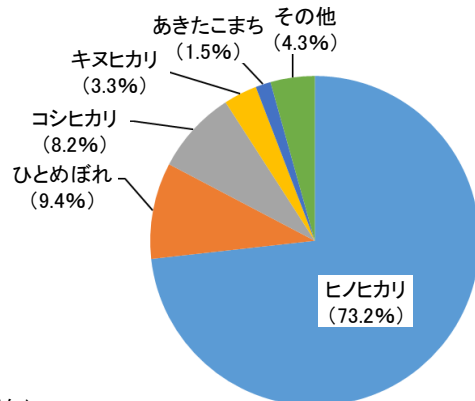
本県での水稻の位置づけは、農業産出額（令和5年）でみると農業全体の約21%です。令和6年の水稻作付面積（主食用）は7,960haで、耕地面積の約43%を占めています。

令和2年のセンサスによると水稻を作付した経営体数は、7,905戸で、全経営体の74%になります。

令和6年の品種別面積比率は右図のとおりで、ヒノヒカリが73%を占めています。



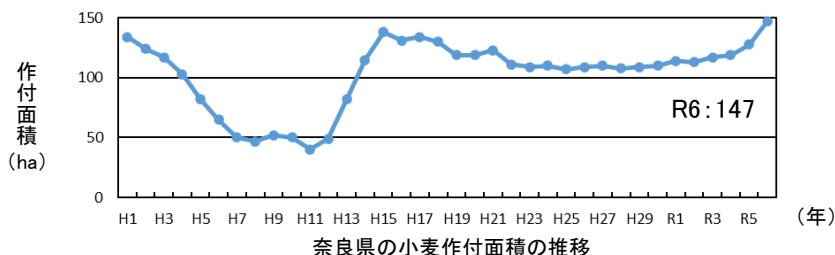
ほ場整備された水田での水稻の収穫



水稻品種別面積比率（令和6年奈良県推計）

小麦

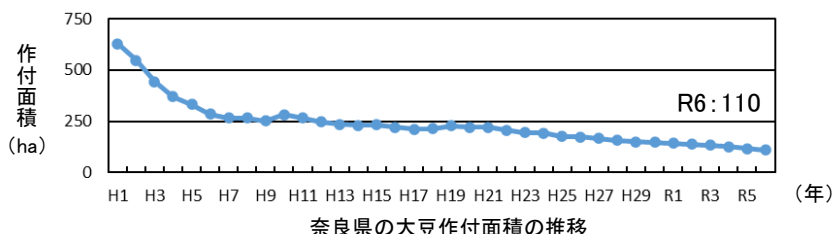
小麦は、桜井市、田原本町を主産地として集団で作付けされています。



小麦の集団栽培

大豆

大豆は、ほとんどが地場消費用の小規模な作付けですが、一部で集団栽培も行われています。また、県内各地で味噌加工や直売等の取り組みがされています。



大豆の集団栽培

ソバ

ソバは、桜井市笠地区等で栽培されています。



ソバの花

野菜

イチゴ

促成作型を中心に約99ha栽培されています。
(天理市、大和郡山市、奈良市、平群町他)

糖度が高く濃厚な食味の‘古都華’をはじめ、ジューシーな‘アスカルビー’、傷みにくく輸送に強い‘奈乃華’、大きな果実の‘珠姫’などの県育成品種を中心に、様々な品種が栽培されています。また、県ではマーケットの需要に応えるため、収穫開始時期が早く乱形果が極めて少ない‘ならあかり’を品種登録出願しています。



イチゴの高設栽培

軟弱野菜

ハウレンソウ(天理市、宇陀市、曽爾村、御杖村)、ネギ(葛城市、大和高田市、五條市)、ミズナ(宇陀市、曽爾村)、コマツナ(田原本町、宇陀市、大和高田市)、大和きくな(曽爾村、天理市、宇陀市、奈良市)、大和まな(大和高田市)が栽培されています。

ハウレンソウ、ミズナ、コマツナ、大和きくなはハウス栽培、ネギ、大和まなは露地栽培が中心です。



ハウレンソウ

ナス

夏秋期の露地栽培と冬春期のハウス栽培が行われています。露地栽培での単位面積当たり収穫量は全国でもトップクラスです。
(天理市、田原本町、広陵町、五條市)



ナス

トマト

平坦地域でのハウスを利用した促成・半促成栽培と中山間地域での雨よけ夏秋栽培に大別されます。糖度の高い完熟系等の品種が導入されています。
(天理市、大和郡山市、五條市、曽爾村)



トマト

キュウリ

平坦地域から中山間地域にかけて栽培されており、夏秋期は露地、秋冬期はハウスで栽培されています。
(五條市、桜井市)

スイカ

昭和初期の大和スイカ全盛期には1,000haを越える作付けがありましたが、令和5年には、約77haまで減少しています。(奈良市、下市町)
全国有数の種子供給県として知られています。

いも類他

サトイモ(御所市、田原本町)、大和いも(御所市、天理市)、ゴボウ(宇陀市)、ミョウガ、山菜類(吉野郡)が栽培されています。

大和野菜

平成17年10月、本県の特産品として特徴をアピールできる「大和の伝統野菜」と「大和のこだわり野菜」を新しい奈良のブランドとして位置づけ、これまで25品目を認定しています。

「大和の伝統野菜」とは、戦前から本県での生産が確認されている品目で、地域の歴史・文化を受け継いだ独特の栽培方法等により、「味、香り、形態、来歴」等に特徴を持つもの、「大和のこだわり野菜」とは、栽培や収穫出荷に手間をかけた栄養やおいしさを増した野菜や本県オリジナル野菜等です。

「大和の伝統野菜」(20品目)

祝だいこん、宇陀金ごぼう、黄金まくわ、片平あかね、小しょうが、下北春まな、千筋みずな、軟白ずいき、花みょうが、ひもとうがらし、大和いも、大和きくな、大和三尺きゅうり、大和まな、大和丸なす、結崎ネブカ、紫とうがらし、筒井れんこん、味間いも、黒滝白きゅうり

「大和のこだわり野菜」(5品目)

大和ふとねぎ、大和寒熟ほうれん草、半白きゅうり、香りごぼう、朝採り野菜



大和の伝統野菜



大和のこだわり野菜



大和まな

薬用作物

薬用作物には、五條・吉野地域を中心とするヤマトウキ、シャクヤクや大和高原北部(山添村)を中心とするキハダ(オウバク)等があります。

県では、平成24年から部局横断的なプロジェクトにより薬用作物の生産から販売までの一体的な振興を図ってきました。その取組の結果、宇陀市や五條市等県内各地でヤマトウキの作付が定着しています。



ヤマトウキ(大和当帰)

果樹

カキ

カキは全国2位の収穫量があり、五條・吉野地域や天理市、御所市で多く栽培されています。主な品種は“刀根早生(とねわせ)”、“平核無(ひらたねなし)”、“松本早生富有(まつもとわせふゆう)”、“富有(ふゆう)”です。品種や栽培法、貯蔵法を組み合わせることによって7月上旬から12月まで出荷されています。輸出にも取り組んでおり、香港等に輸出しています。

ハウス栽培は、昭和55年に始まり、五條市、下市町で行われており、その収穫量は全国1位で、品種は“刀根早生”です。7月上旬から全国に先駆けて収穫が始まり、9月中旬まで出荷されています。



刀根早生のハウス栽培

ウメ

五條・吉野地域で多く栽培されています。主な品種は“鶯宿(おうしゆく)”、“白加賀(しらかが)”、“南高(なんこう)”で、5月下旬から7月上旬まで出荷されています。

市場出荷の他、加工業者向けにも出荷され、梅酒、梅ジュース、梅干し、梅エキス用等に加工されています。



ウメ

ナシ

大淀町、斑鳩町で栽培されています。

主な品種は大淀町では“二十世紀”、斑鳩町では“幸水”、“豊水”で、8月中旬から9月下旬まで直売を主体に販売されています。



ナシ(二十世紀)

ブドウ

主に平群町、河合町で栽培されています。

主な品種は“デラウェア”、“巨峰”で、ハウス栽培の作型を組み合わせ、5月下旬から8月下旬まで近郊市場への出荷と地元での直売が行われています。また、近年、直売向けの品種で“シャインマスカット”の栽培が増えつつあります。



ブドウ(デラウェア)

イチジク

平坦部の水田果樹として主に大和郡山市で栽培されています。主な品種は“柵井ドーフィン”です。5月上旬から10月下旬まで近郊市場を中心に出荷されています。



イチジク(柵井ドーフィン)

花き・植木

キク（切り花）

キクは主に露地で栽培され、5～11月に出荷されています。全国有数の産地となっており、特に小ギクは関西の夏秋期シェア1位を誇っています。

また、県育成小ギクとして‘春日の紅’、‘春日の鈴音’、‘春日W1’（流通名：春日の泉）、‘春日Y1’（流通名：春日の光）、‘春日Y2’（流通名：春日の星）、‘春日R1’（春日の姫）および‘春日W2’（春日の空）、県育成二輪ギクとして‘千都の舞’を品種登録しています。（小ギク：平群町、輪ギク：葛城市他）



開花時期を調節するための電照処理



小ギク‘春日Y1’
（流通名：春日の光）

ダリア（球根・切り花）

球根養成（宇陀市、山添村）及び切り花生産（宇陀市、葛城市）が行われています。切り花は6～10月出荷の露地栽培が主で、ハウス栽培で11～5月出荷の冬春切りの作型もあります。



切り花ダリアの収穫

鉢もの

シクラメンやサイネリア等が生産されています。（橿原市、桜井市、御所市、宇陀市、葛城市他）



シクラメン園場

バラ（切り花）

施設での周年切り中心の作型が主流で、従来からの土耕栽培の他にロックウール栽培、少量培地耕等の養液栽培が普及しています。（平群町、奈良市、下市町他）



平群温室バラ組合・バラ団地

花壇用苗もの

パンジー・ビオラを中心に生産されており、特にパンジーは全国8位の出荷量を誇ります。（県内全域）



花壇用苗もの（パンジー）

枝もの（切り花）

冬～春に促成出荷されるハナモモ、サクラ、サンシュユ等の花木、正月用のクマザサや南天、周年出荷のコウヤマキやアセビに加え、季節毎に多様な品目が出荷され、関西有数の産地となっています。（五條市、平群町、下市町他）



ケイオウザクラの促成温室



花木類（植木）

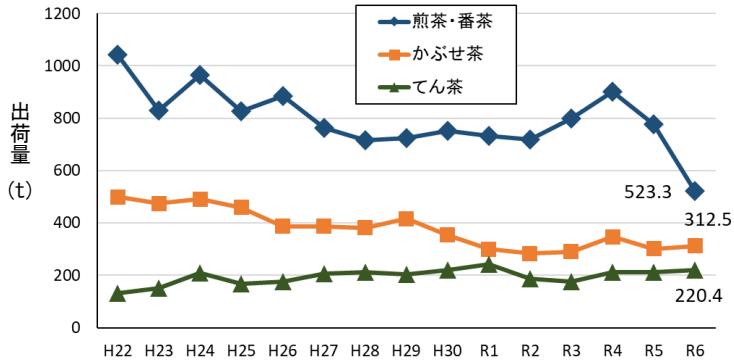
台杉や緑化用中低木を中心とした生産が行われています。（大和郡山市、御所市、宇陀市他）

茶

「大和茶」は、奈良市、山添村、天理市、宇陀市、大淀町、東吉野村の冷涼な気候の下で栽培され、良質な煎茶やかぶせ茶が生産されています。

最近では食品加工用抹茶の需要増加に伴い、抹茶原料であるてん茶の生産量が増えてきています。

また実需者からの要望もあり、GAP(農業生産工程管理)認証を取得する生産者が増加しています。



茶種別出荷量(奈良県農協取扱い)



優良茶園の風景

大和高原に広がる造成茶園。防霜扇が整備された緩傾斜地に緑の縞模様が広がり、独特の景観を形成しています。



コンテナ型複合摘採機

摘採速度の向上、肥培管理労力の低コスト化が図られ、県内の茶産地で導入が進んでいます。



機械化された大型自動製茶工場

コンピューターで統合制御された製茶工場では自動的にお茶が加工されます。

環境保全型農業・有機農業

みどりの食料システム戦略に基づき、県内各地で土づくりと化学肥料・化学農薬の削減に取り組む環境保全型農業や有機農業の取組が行われています。

旧持続農業法に基づくエコファーマーの認定数は令和6年3月末時点で92件、みどりの食料システム法に基づく認定数は令和7年1月末時点で45件となっており、今後も引き続き新認定制度への移行と新規認定を支援していきます。

有機農産物を始め、環境保全型農業による農産物の生産・消費拡大を図るため、奈良県の環境にやさしい農業シンボルマークの認定を行っています。



奈良県の環境にやさしい農業シンボルマーク



堆肥施用による土づくりや天敵昆虫を利用した化学農薬低減技術の一例

水産業

奈良県では、吉野川(紀の川)、新宮川、淀川、大和川の4水系の河川で、アユやアマゴ等を対象に釣りによる漁業が行われています。また、山間部で豊かなきれいな水を利用してアマゴ等食用魚の養殖が、大和平野でかんがい用水を利用して金魚を主体とする観賞魚の養殖が行われています。

『県のさかな』

県民の皆様に魚への親しみを持っていただき、これらを育む水環境への関心を高めていただくため、「きんぎょ」「あゆ」「あまご」の3魚種を県のさかなに制定しています。

河川漁業

21漁業協同組合が河川漁業を行っており、吉野川・熊野川の本支流や淀川(名張川)の上流域ではアユやアマゴの、大和川下流域や他の3水系のダム湖等ではコイ、フナ、ワカサギ等の漁業が行われています。また、アユ漁業の振興のため、ダム湖産天然アユの有効活用や効果的な放流方法の研究に取り組んでいます。さらに、カワウの食害による漁業被害が多いことから、カワウの一定数の駆除に取り組むことで、内水面漁業・養殖業の経営の安定化を図っています。



アユ漁の解禁風景

養殖業

アマゴ

主な生産地は、吉野郡や宇陀郡で、養殖されたアマゴは河川漁業の放流用のほか、地元へ食用として出荷されたり、甘露煮等の加工品としても利用されています。

金魚

大和郡山市を中心に、水田を改良した養魚池等で養殖されています。奈良県は金魚の国内有数の産地で、生産された金魚は市場、問屋等を通じ全国に出荷されています。

その他

大和平野のため池を利用して、フナが古くから養殖されています。また、生産量はわずかですが、アユ、ニジマスが吉野郡で地元向けに養殖されています。



養殖アマゴ



金魚の養殖場



観賞魚市場のせり風景

3 研究の取組み

農業研究開発センターの研究成果と現在取り組んでいる内容を紹介します。

1. 野菜

●長距離輸送時のイチゴ品質保持技術の確立



輸送・保存時の果実品質を保持するための条件を検討
果実硬度測定機(左)・振動試験機(右)による評価

●温暖化に対抗する施設野菜の生産安定



「大和丸なす」のつやなし果(右)
発生対策の検討



トマトの密植隔離土耕
栽培における生産安定
技術の検討

2. 花き

●需要期に安定して開花する小ギクの新品種 育成



8月盆用に安定開花
する品種「春日Y2」
(流通名:春日の星)

低温期の茎伸長性が良い品種
(左)「春日R1」(流通名:春日の姫)
(右)「春日W2」(同:春日の空)

●キク白さび病の感染環を 断ち切る技術体系の確立



キク挿し穂 温湯49℃・1分間
採穂時の温湯消毒による
キク白さび病菌の防除

●枝物の輸出拡大に対応する 短期育苗技術の開発



アセビ スモークツリー
アセビやスモークツリーの
挿し木による短期増殖技術

3. 作物

●地域特性に応じた育種・品種選定と栽培技術の確立



奈良県オリジナル酒米品種「なら酒1504」
高品質生産技術の確立

素麺やパンに適した
新たな小麦品種の選抜



奈良県の気候に適した
水稻奨励品種の選定

4. 病虫害防除・環境保全

●アザミウマ類等に対する農薬代替技術の開発



天敵製剤の利用
(クメリスカブリダニ)



土着天敵の保護利用
(タバコカシムカメと天敵温存植物のゴマ)



物理的防除資材
(赤色防虫ネット)の利用

●ナスうどんこ病に対する有効薬剤の探索



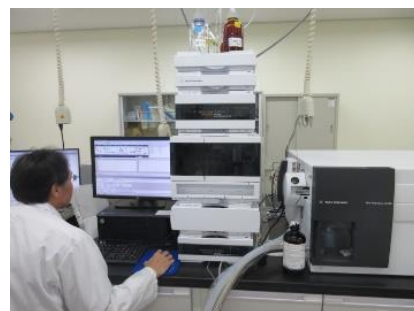
ナスうどんこ病の発病状況

●農業におけるCO₂削減に関する研究



農地土壌中の炭素蓄積量の調査

●農産物の農薬残留分析



農薬残留分析の様子

5. 果樹

●新たなカキ品種の育成



外観や食味が良好で
栽培しやすい新規品種の育成

●ウメの生産不安定要因の解明



受粉確実性を高めるために
開花特性を調査

●カキの重要病害虫の発生生態と防除対策の検討



炭そ病に対する薬剤の効果を調査(左)および
画像判別によるカメシの予察を検討(右)

●温暖化に適応した果樹新規品目の栽培適性調査



カキ栽培ハウス内において
アボカド等熱帯果樹の栽培適性を調査



簡易ハウス内において
中晩柑類の栽培適性を調査

●スマート技術を活用したカキの自動灌水システムと収穫予測技術の開発



灌水が果実の収量および品質に及ぼす影響と
AIを利用した果実数・熟度調査技術を検討

6. 薬用作物

●優良品種の育成(ヤマトウキ)



花が咲きにくいことで開花による根の劣化を回避可能な品種を育成
(左:開花の様子、中央:木化した根、右:良質な根)

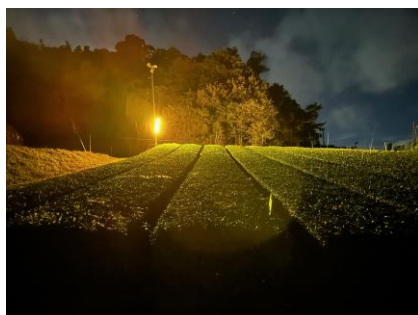
●単味製剤原料向けトウキの省力栽培技術の開発



1穴密植栽培の検討
(左:慣行中苗1本植え、右:小苗5本密植植えの製品)

7. 茶

●輸出需要向け茶生産技術の確立



黄色LED灯による害虫防除



フェロモン剤(赤色チューブ)による
害虫防除



害虫のモニタリング調査

8. 中山間地農業・遺伝資源の保存

●ヨモギ栽培技術の開発



ヨモギ栽培試験

●有機農業を支援する技術開発



太陽熱利用土壌処理

●遺伝資源の保存と活用



ジーンバンクの運営

